デイリー・マーケット・レポート

東京市場デイリー・レビュー／2026 年 10 月 26 日(月) 発行：ていネコの投資ノート

1．本日のサマリー

■ 日経平均株価は前週末比 503 円 51 銭(0.80%)安の 6 万 2,189 円 65 銭で 3 日続落し、7 月下旬以来およそ 3 か月ぶりの安値で引けた。一方で TOPIX は 7.17 ポイント(0.18%)高の 3,972.98 と 3 営業日ぶりに反発し、主要 2 指数の方向が逆になった。

■ 下げの主因は半導体関連株に集中した。アドバンテストが 274 円 00 銭、東京エレクトロンが 175 円 97 銭、ファーストリテイリングが 153 円 72 銭を日経平均から差し引き、この 3 銘柄だけで 603 円 69 銭の押し下げとなった(筆者算出)。指数の下げ幅を 100 円以上上回る。

■ 物色は資源・バリューに向いた。WTI 原油が 103 ドル台に乗せたことを受けて鉱業が 4.58%、石油・石炭製品が 3.03%、卸売業が 2.79%上昇し、33 業種中 22 業種が上昇。東証プライムの値上がり銘柄数は 816 で値下がり 682 を上回った。

■ 今週は 10 月 28 日の FOMC、29 日から 30 日の日銀金融政策決定会合、29 日の米 7〜9 月期 GDP と 9 月個人消費支出が集中する。中東情勢を背景とした原油高がインフレ見通しをどう動かすかが最大の関門となる。

2．主要指標

指標	水準	前日比	備考
日経平均株価	62,189.65	-503.51	3 日続落。約 3 か月ぶりの安値
TOPIX	3,972.98	+7.17	3 営業日ぶりの反発
プライム売買代金	6 兆 6,438 億円	-2 兆 2,945 億円	概算値。前週末は 8 兆 9,383 億円
プライム売買高	21 億 2,782 万株	-7 億 5,650 万株	前週末の大商いから減少
日経 225 先物 12 月限	62,200 円	-710 円	大阪取引所の清算値
新発 10 年債利回り	2.770%	-0.019%	株安と米金利低下で債券買い
新発 2 年債利回り	1.861%	+0.002%	ほぼ横ばい
新発 20 年債利回り	3.563%	-0.039%	超長期主導の金利低下
長期国債先物 12 月限	126 円 68 銭	—	寄付 126 円 50 銭。高 126 円 69 銭
ドル円	157.10 円	—	東京 17 時台。高 157.22／安 156.65
ユーロ円	176.30 円	—	東京時間の高値は 176.35 円
NY ダウ	52,215.16	-652.82	10 月 23 日の終値
S&P500	7,623.68	-39.75	10 月 23 日の終値
ナスダック総合	25,955.34	-53.52	10 月 23 日の終値
SOX 指数	10,779.46	+47.48	10 月 23 日。22 日の 6.72%安から小反発
米 10 年債利回り	4.997%	+0.044%	10 月 23 日。2 年 4.686%／30 年 5.325%
上海総合指数	3,697.52	+7.04	10 月 26 日の終値
香港ハンセン指数	23,211.81	+118.44	10 月 26 日の終値。続伸
韓国総合株価指数	5,469.47	-80.83	10 月 26 日の終値。AI 関連安で反落
WTI 原油 12 月限	103.27 ドル	+3.80 ドル	10 月 23 日の清算値。26 日は 101 ドル割れ
NY 金 12 月限	4,007.90 ドル	-52.50 ドル	10 月 23 日の清算値。続落

3．株式市場

プラス圏に浮上しながら、半導体に押し戻された一日

前週末の米国株安を映して 243 円安の 6 万 2,449 円 96 銭で始まり、朝方には 598 円 82 銭安の 6 万 2,094 円まで下押しした。その後は原油高を手掛かりとした資源・商社株の上昇に支えられて 6 万 2,902 円まで戻し、一時はプラス圏に浮上した。しかし半導体関連株の下げが止まらず、後場は再び水準を切り下げて安値圏で引けている。終値は 200 日移動平均線(6 万 1,524 円)をなお 665 円上回るが、25 日移動平均線(6 万 6,230 円)からは 4,000 円超の下方に離れた。

売られたのは値がさの半導体、買われたのは原油と商社

アドバンテストは 1,270 円安の 3 万 1,070 円、東京エレクトロンは 348 円安の 9,110 円。米ゴールドマン・サックスが韓国総合株価指数の 12 か月後の目標値を 1 万 2,000 ポイントから 9,000 ポイントに引き下げたことが伝わり、AI・半導体関連の持ち高調整が日韓台にまたがって広がった。キオクシアホールディングスやイビデンにも売りが及んでいる。半面、INPEX が原油高で買われ、三菱商事が 195 円高の 4,910 円、豊田通商が 200 円高の 7,432 円と商社株が堅調で、電力・ガス業や不動産業も上昇した。

売買代金は 2 兆円超の減少、様子見が強い

東証プライムの売買代金は 6 兆 6,438 億円で、前週末の 8 兆 9,383 億円から 2 兆 2,945 億円減少した。売買高も 21 億 2,782 万株と 7 億株超の減少である。前週末の大商いが一巡したうえ、週後半に日銀金融政策決定会合と FOMC が並ぶため、積極的に持ち高を傾ける動きが出にくかった。値上がりと値下がりの銘柄数がおおむね 8 対 7 で互角である一方、指数の下げは値がさ株に偏っている。市場全体が売られたのではなく、資金の置き場所が入れ替わった一日と見るのが自然である。

4．本日の主題：原油高が分けた日経平均と TOPIX

日経平均が 0.80%下落した同じ日に、TOPIX は 0.18%上昇した。値上がり銘柄は 816 で値下がりの 682 を上回り、33 業種のうち 22 業種が上昇している。市場の多数は上がっており、日経平均の 503 円安は全体像を映していない。

差を生んだのは指数の構成である。日経平均は株価の絶対水準が高い値がさ株の比重が大きく、アドバンテスト、東京エレクトロン、ファーストリテイリングの 3 銘柄で 603 円 69 銭の押し下げとなった（筆者算出）。指数の下げ幅 503 円 51 銭を 100 円以上上回り、この 3 銘柄を除けば日経平均は上昇していた計算になる。対して TOPIX は時価総額加重で金融・資源・内需の比重が相対的に高く、鉱業 4.58%高、石油・石炭製品 3.03%高、卸売業 2.79%高が電気機器 1.35%安を吸収した。

原油高という単一の材料が、指数の設計の違いを通じて正反対の結果を生んだことになる。原油高はインフレ再燃を通じて金利に効き、グロース株の割引率を押し上げる一方、資源会社と商社の収益見通しは押し上げる。原油が 103 ドル台に居座るかぎり、この二層化は続きやすい。もっとも大阪取引所の日経 225 先物 12 月限は 6 万 2,200 円で現物終値とほぼ同水準、夜間取引も 6 万 2,300 円と小幅高で始まっており、海外発の売りが加速する兆候は現時点では見られない。

5．債券・金利

長期国債先物 12 月限は 126 円 50 銭で寄り付き 126 円 68 銭で引けた。高値 126 円 69 銭、安値 126 円 37 銭。株安と米金利の低下が買いを誘った。新発 10 年債利回りは 2.770%と 0.019%低下、20 年債は 3.563%へ 0.039%低下した一方、2 年債は 1.861%とほぼ横ばいで、低下は政策金利観の変化ではなく期間プレミアムの圧縮を映す。米国では 23 日に 10 年債が 4.997%、30 年債が 5.325%まで上昇しており、原油高によるインフレ懸念が長い年限に効いた形である。

6．為替・商品

ドル円は東京時間に 157 円 22 銭まで上昇した後に 156 円 65 銭まで下げ、夕方は 157 円 10 銭前後に戻した。午前は仲値のドル需要が円売りを支え、午後は株安と米金利低下が円買いを誘った。ユーロ円は 176 円 35 銭まで上昇した。ムーディーズがフランスの格付けを Aa3 で据え置き、ユーロドルが 1.1227 ドルまで買われた影響である。WTI 原油 12 月限は 23 日に 3.80 ドル高の 103.27 ドルと中東情勢で急伸したが、26 日の時間外では 101 ドルを割り込んだ。NY 金 12 月限は 52.50 ドル安と続落している。

7．海外市場の動向

10 月 23 日の米国市場は主要 3 指数がそろって下落した。ダウ平均は 652 ドル安、ナスダック総合は 53 ポイント安である。フーシ派のサウジ攻撃と対イラン情勢の緊張で原油が上昇し、インフレ高止まり懸念から生活必需品が 1.8%安となった。半面エネルギーは 2.5%高、SOX 指数は 0.44%高の 10,779.46 と、22 日の 6.72%安からの戻りは鈍い。26 日のアジアはまちまちで、韓国が 1.46%安と反落した一方、上海総合は 0.19%高、香港ハンセンは値ごろ感の買いで 0.51%高と続伸。台湾は振替休日で休場。

8．直近の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	10 年債	売買代金
10 月 19 日(月)	64,916.70	-407.59	4,067.48	2.898%	6 兆 7,835 億円
10 月 20 日(火)	64,075.42	-841.28	4,009.21	2.883%	6 兆 7,992 億円
10 月 21 日(水)	64,621.24	+545.82	4,043.73	2.882%	6 兆 9,265 億円
10 月 22 日(木)	62,907.84	-1,713.40	3,997.50	2.870%	7 兆 569 億円
10 月 23 日(金)	62,693.16	-214.68	3,965.81	2.789%	8 兆 9,383 億円
10 月 26 日(月)	62,189.65	-503.51	3,972.98	2.770%	6 兆 6,438 億円

9．総括と注目点

日経平均の 503 円安という数字だけを見れば 3 日続落だが、市場の内側では資金が半導体から資源・商社へ移っていた。10 月 22 日の 1,713 円安以降、日経平均は値がさ半導体株の動き次第という性格を一段と強めている。

- 10 月 28 日(水)FOMC：政策金利の発表は日本時間 29 日 3 時、ウォーシュ FRB 議長の会見は 3 時 30 分。原油高によるインフレ再燃を声明がどう扱うかが焦点。
- 10 月 29 日(木)～30 日(金)日銀金融政策決定会合：30 日に展望レポートと植田総裁会見。円安と原油高の織り込み方を見る。
- 10 月 29 日(木)米 7～9 月期 GDP 速報値と 9 月個人消費支出が 21 時 30 分。同日に ECB 理事会と 2 年債入札も重なる。
- 決算の山：28 日にアドバンテスト・日立・NEC、30 日に東京エレクトロン・村田製作所・TDK。売られた半導体株の業績確認が試金石。

東証プライムの売買代金・売買高は概算値。値上がり 816・値下がり 682・変わらず 49 は株探「日経平均 26 日大引け」(15 時 32 分配信)を第一出典とした。同社「東京株式(大引け)」(16 時 17 分配信)と media-ir は 818・686・49 としており、引け直後の速報集計と後刻の集計に差異がある。

日経平均への寄与度は株探の大引け記事とフィスコ「日経平均寄与度ランキング(大引け)」の一致を確認して採用した。上位 3 銘柄の押し下げ合計 603 円 69 銭と指数の下げ幅との差は筆者算出。高値 6 万 2,902 円は円未満切り捨て表示、安値 6 万 2,094 円は前週末終値からの下げ幅 598 円 82 銭に基づく筆者算出。

WTI 原油と NY 金は「前営業日終値＋前日比＝当日終値」の検算と 2 系統の出典の一致を確認した。国内債の利回りは同一系列(日次「日本国債市場」記事)で全日そろえた。SOX 指数の前日比は二次集計サイト 2 件が一致する+47.48 を採用し、フィスコ系の+47.49 は採らなかった。香港ハンセン指数の前日比は 10 月 23 日終値との差による筆者算出。ハンセンテック指数、CME 日経平均先物の清算値、新発 30 年債利回りは執筆時点で取得できず「—」とした。本資料は生成 AI を用いて公開情報を整理・執筆したものである。出典：株探、日本経済新聞、みんかぶ FX、財経新聞、マネクリ、media-ir、Bloomingbit、OANDA 証券、トレーダーズ・ウェブ、stock-marketdata.com。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。